

様式3

公立大学法人静岡文化芸術大学

令和元事業年度に係る業務の実績に関する評価結果

令和2年8月

静岡県公立大学法人評価委員会

第1 公立大学法人静岡文化芸術大学の令和元事業年度における業務実績評価について

静岡県公立大学法人評価委員会は、「静岡県が設立する公立大学法人に係る評価基本方針」（H19.12.5 制定）に基づき、令和元事業年度の業務の実績に関する評価を行った。

1 評価に当たっての基本的な考え方

- (1) 評価を通じて、大学の教育研究及び法人運営の進捗状況等を分かりやすく示し、県民への説明責任を果たしていくものとする。
- (2) 法人の教育研究並びに組織及び運営についての様々な工夫や特色ある取組を積極的に評価するものとする。
- (3) 次期中期目標・中期計画、法人の組織及び業務運営の見直しの検討に資するものとする。

2 評価方法

- (1) 年度評価は、「全体評価」と「項目別評価」により行った。
- (2) 「全体評価」は、(3)の項目別評価を踏まえるとともに、当該年度の重点的な取組や法人の特性等に配慮しつつ、中期目標・中期計画の全体的な進捗状況を総合的に判断した。
- (3) 「項目別評価」は、法人による自己点検・評価の結果を基に、当該年度計画に定めた項目ごと、年度計画設定の妥当性も含めて総合的に検証を行い、中期目標・中期計画の達成に向けた進捗状況を確認した上で、「大学の教育研究等の質の向上に関する目標」、「法人の経営に関する目標」、「自己点検・評価及び情報の提供に関する目標」及び「その他業務運営に関する重要目標」の4つの目標別に総合的に検証した。

第2 全体評価

1 評価結果と判断理由

(1) 評価結果

公立大学法人静岡文化芸術大学（以下「法人」という。）の令和元年度の業務実績に関しては、全体として「**中期目標・中期計画の達成に向けて順調に進んでいる**」と評価する。

(2) 判断理由

法人は、静岡文化芸術大学が、豊かな人間性と的確な時代認識や社会認識を持ち、国際社会の様々な分野で活躍できる人材の育成と、“開かれた大学”として地域社会や国際社会の発展への貢献に取り組むよう計画を策定し、遂行している。

第2期中期目標期間の4年目である令和元年度は、昨年度に実施した当評価委員会の評価において意見した事項の改善に努めながら、地域課題解決への取組や外部資金の獲得推進など、第2期中期計画及び年度計画の達成に向け、教職員を挙げて取り組み、着実に成果を上げた1年となった。

法人の中期目標・中期計画の達成に向けた業務の進捗状況について、「第3項目別評価」のとおり、「**大学の教育研究等の質の向上に関する目標**」、「**法人の経営に関する目標**」、「**自己点検・評価及び情報の提供に関する目標**」及び「**その他業務運営に関する重要目標**」の全ての項目について、「**中期目標・中期計画の達成に向けて順調に進んでいる**」と認められ、これらの状況と令和元年度の重点的な取組や法人の特性等を総合的に勘案し、(1)のとおりの評価が相当と判断した。

(3) 令和元年度の重点的な取組

ア 地域の自治体等との連携について

教員や学生の研究分野を活かし、自治体が抱える地域課題の解決に向けた調査研究や受託事業等を実施し、**地域の自治体等の政策形成や各種施策の推進に積極的に協力した。**(No. 76、78、80、81)

イ 外部資金の獲得推進について

科学研究費補助金獲得に向けた学内研修会の実施やWeb添削システムの提供に加え、研究計画調書の作成の要点等の解説を視聴できる動画配信サービスの提供を実施し、**研究支援体制の充実**を図った。また、教員特別研究の募集において、科学研究費補助金につながる研究を申請条件とする区分及び優先的採択条件とする区分を設定し、**外部資金獲得を推進した。**(No. 70、113)

ウ 新たな体制の整備について

役職教員の人事において、新たな人材を登用する等、大学が目指す将来構想実現に向け、学内の体制を整備した。(No. 95)

2 評価に当たっての意見、指摘等

- 文化政策研究科において、学生数が定員に満たない状態が続いていることから、引き続き**定員確保に努める必要**がある。一方、デザイン研究科においては、学生数が定員を超過しているため、**定員管理を適切に行う必要**がある。
- 新型コロナウイルス感染症拡大防止のために整備・実施した遠隔授業の経験を基に、国内外の大学との交流、公開講座等の市民対象イベントやリカレント教育等において、**ICTを活用した新しい試みが生まれることを期待**する。
- 令和2年度は、第2期中期目標期間の仕上げの期間であることから、引き続き検討段階にあるものについては、実現に向けた取組を進め、中期目標・中期計画が着実に達成されることを期待する。

[参考]項目別評価の結果

| | | | | | |
|------------------------|----------------|----------------|---------------------|---------------|-----------------|
| 1 大学の教育研究等の質の向上に関する目標 | I 特筆すべき進捗状況 | II 順調に進んでいる | III おおむね順調に進んでいる | IV やや遅れている | V 重大な改善事項がある |
| 2 法人の経営に関する目標 | I 特筆すべき進捗状況 | II 順調に進んでいる | III おおむね順調に進んでいる | IV やや遅れている | V 重大な改善事項がある |
| 3 自己点検・評価及び情報の提供に関する目標 | I 特筆すべき進捗状況 | II 順調に進んでいる | III おおむね順調に進んでいる | IV やや遅れている | V 重大な改善事項がある |
| 4 その他業務運営に関する重要目標 | I 特筆すべき進捗状況 | II 順調に進んでいる | III おおむね順調に進んでいる | IV やや遅れている | V 重大な改善事項がある |

第3 項目別評価

I 大学の教育研究等の質の向上に関する目標

1 評価結果と判断理由

(1) 評価結果

大学の教育研究等の質の向上に関する目標の進捗状況は、「中期目標・中期計画の達成に向けて順調に進んでいる」と評価する。

(2) 判断理由

大学の教育研究等の質の向上に関する目標について、当評価委員会が検証した結果、年度計画記載の95項目中4項目が「計画を上回って実施している」、91項目が「計画を十分に実施している」と認められ、これらの状況等を総合的に勘案し、(1)のとおりの評価に相当すると判断した。

(3) 特に評価する項目

- ・ **新教育課程（文明観光学コース・匠領域）の設置**、中日新聞社・静岡新聞社との共同連携授業に関する協定の締結など**教育内容の充実**に取り組んだ。(No.16-2、16-3、19)
- ・ 英語・中国語教育センター内に、在学生在が留学生の相談に応じる**ピア・サポート・コーナーを設置**し、留学生支援体制を充実させた。(No.46)
- ・ **対象を1～3年生まで拡大して、保護者会を開催**した。教学に関する説明、就職活動スケジュールや保護者の心構え、社会で求められるデザイン職等についての説明を行い、参加した保護者のアンケートでは**高い満足度が得られた**。(No.57)
- ・ 県内自治体、企業、団体等からの依頼により、建築物やロゴマーク等のデザイン案の作成や中山間地域の問題解決など、**教員や学生の研究分野を活かして受託研究や受託事業を実施**した。また、**自治体が抱える地域課題の解決のため**、ふじのくに地域・大学コンソーシアムの助成金を活用し、**調査研究・発表を行った**。(No.76)
- ・ **審議会や委員会等への参加や受託事業等の実施**により、静岡県をはじめとする自治体の**各種施策に協力**した。また、観光分野の研究を希望する浜松市職員の派遣を受け入れた。(No.80、81)

2 評価に当たったの意見、指摘等

- ・ 文明観光学コース及び匠領域を設置し、地域と連携した実践的な演習等、特色のある教育を実施している。また、公益財団法人浜松・浜名湖ツーリズムビューローとの連携協定等、今後の教育研究につながる取組も実施されて

いる。今後とも、特色のある教育研究を実施し、大学の魅力が更に高まることを期待する。(No.16-2、16-3)

- 学生生活実態調査について、調査方法をWeb調査に変更し、回答者の利便性向上や事務の効率化が図られたものの、前回調査と比較し、回答率が低下している。より多くの学生の実態を把握し、学生支援につながられるよう、今後の調査においては工夫されたい。(No.49)
- 静岡県をはじめとする自治体の依頼を受け、審議会や委員会等への参加・協力実績、受託事業等の受入れ件数が増えている。今後とも、自治体の政策形成及び各種施策の推進を積極的に支援し、より一層地域との連携が強化されることを期待する。(No.80、81)

[参考]小項目評価の集計結果

| | 評価対象 項目数 | A 計画を 上回って実施 | B 計画を 十分に実施 | C 計画を十分には 実施していない | D 計画を 大幅に下回る |
|--------|-------------|--------------------|-------------------|-------------------------|--------------------|
| 1 教育 | 45 | 0 | 45 | 0 | 0 |
| 2 学生支援 | 19 | 1 | 18 | 0 | 0 |
| 3 研究 | 11 | 0 | 11 | 0 | 0 |
| 4 地域貢献 | 11 | 3 | 8 | 0 | 0 |
| 5 国際交流 | 9 | 0 | 9 | 0 | 0 |
| 合 計 | 95 | 4 (4.2%) | 91 (95.8%) | 0 | 0 |

II 法人の経営に関する目標

1 評価結果と判断理由

(1) 評価結果

法人の経営に関する目標の進捗状況は、「中期目標・中期計画の達成に向けて順調に進んでいる」と評価する。

(2) 判断理由

法人の経営に関する目標について、当評価委員会が検証した結果、年度計画記載の24項目中1項目が「計画を上回って実施している」、23項目が「計画を十分に実施している」と認められ、これらの状況等を総合的に勘案し、(1)のとおりの評価に相当すると判断した。

(3) 特に評価する項目

- 研究費執行状況を即時に確認できる新財務会計システムの整備、事務局パソコン更新時の仕様の見直し、年末調整業務のアウトソーシング化等により、経費節減・事務処理の効率化を図った。(No. 108、117、118)
- 研究助成財団等の公募情報の案内に加え、教員特別研究の募集において、科学研究費補助金につながる研究を申請条件とする区分や優先的採択条件とする区分を設定し、外部資金獲得を推進した。(No. 113)

2 評価に当たっての意見、指摘等

- 大学が目指す将来構想を実現するため、役職教員の人事において、新たな人材の登用が行われている。今後とも、理事長・学長のリーダーシップの下、将来を見据えた取組を進め、教職員一体となり、法人経営・大学運営を推進されたい。(No. 95)
- 科学研究費補助金獲得に向けた研究支援体制の充実や受託事業等の増加により、自己収入の獲得が推進されている。科学研究費補助金においては、応募する教員の割合が増えるよう、取組をより一層進められたい。(No. 113)

[参考]小項目評価の集計結果

| | 評価対象 項目数 | A 計画を 上回って実施 | B 計画を 十分に実施 | C 計画を十分には 実施していない | D 計画を 大幅に下回る |
|----------|-------------|--------------------|-------------------|-------------------------|--------------------|
| 1 業務運営 | 18 | 0 | 18 | 0 | 0 |
| 2 財務内容改善 | 6 | 1 | 5 | 0 | 0 |
| 合計 | 24 | 1 (4.2%) | 23 (95.8%) | 0 | 0 |

Ⅲ 自己点検・評価及び情報の提供に関する目標

1 評価結果と判断理由

(1) 評価結果

自己点検・評価及び情報の提供に関する目標の進捗状況は、「中期目標・中期計画の達成に向けて順調に進んでいる」と評価する。

(2) 判断理由

自己点検・評価及び情報の提供に関する目標について、当評価委員会が検証した結果、年度計画記載の6項目全てが「計画を十分に実施している」と認められ、これらの状況等を総合的に勘案し、(1)のとおりの評価に相当すると判断した。

(3) 特に評価する項目

- ・ 大学運営、教育研究活動、学生の課外活動など、大学公式WebサイトやSNSにより積極的に情報発信した。また、SNSでの情報発信においては、学生記者を募集し、学生による記事や写真を投稿した。(No. 123)

[参考]小項目評価の集計結果

| | 評価対象 項目数 | A 計画を 上回って実施 | B 計画を 十分に実施 | C 計画を十分には 実施していない | D 計画を 大幅に下回る |
|-------------|-------------|--------------------|-------------------|-------------------------|--------------------|
| 1 自己点検・評価 | 1 | 0 | 1 | 0 | 0 |
| 2 情報公開・広報充実 | 5 | 0 | 5 | 0 | 0 |
| 合計 | 6 | 0 | 6 (100.0%) | 0 | 0 |

IV その他業務運営に関する重要目標

1 評価結果と判断理由

(1) 評価結果

その他業務運営に関する重要目標の進捗状況は、「中期目標・中期計画の達成に向けて順調に進んでいる」と評価する。

(2) 判断理由

その他業務運営に関する重要目標について、当評価委員会が検証した結果、年度計画記載の16項目中15項目が「計画を十分に実施している」と認められ、これらの状況等を総合的に勘案し、(1)のとおりの評価に相当すると判断した。

(3) 特に評価する項目

- ・ 防災に関する先進事例の把握や大規模災害発生時の大学間連携の実現に向け、高知工科大学を中心とした**公立大学と大学の災害対策事例を共有し、防災体制強化を図る取組を推進した。**(No. 130)

(4) 課題とする項目

- ・ ハラスメントの防止について、教職員の研修や外部相談窓口の周知等の取組は実施されているものの、**重大なハラスメント事案が発生した。**全教職員が強い危機感を持ち、**再発防止に向けた取組を更に徹底する必要がある。**(No. 137)

[参考]小項目評価の集計結果

| | 評価対象 項目数 | A 計画を 上回って実施 | B 計画を 十分に実施 | C 計画を十分には 実施していない | D 計画を 大幅に下回る |
|------------------|-------------|--------------------|-------------------|-------------------------|--------------------|
| 1 施設・設備 | 3 | 0 | 3 | 0 | 0 |
| 2 安全管理・防 災対策 | 9 | 0 | 9 | 0 | 0 |
| 3 人権尊重・社 会的責任 | 4 | 0 | 3 | 1 | 0 |
| 合 計 | 16 | 0 | 15 (93.8%) | 1 (6.2%) | 0 |

業務実績評価集計表(令和元年度)

| 区分 | | 評価対象 項目数 | A 計画を 上回って実施 | B 計画を 十分に実施 | C 計画を十分には 実施していない | D 計画を 大幅に下回る |
|---------------|--------|-------------|--------------------|-------------------|-------------------------|--------------------|
| 教育 研究 等 | 教育 | 45 | 0 | 45 | 0 | 0 |
| | 学生支援 | 19 | 1 | 18 | 0 | 0 |
| | 研究 | 11 | 0 | 11 | 0 | 0 |
| | 地域貢献 | 11 | 3 | 8 | 0 | 0 |
| | グローバル化 | 9 | 0 | 9 | 0 | 0 |
| | 合 計 | 95 | 4 (4.2%) | 91 (95.8%) | 0 | 0 |
| 法人経営 | | 24 | 1 (4.2%) | 23 (95.8%) | 0 | 0 |
| 自己点検 | | 6 | 0 | 6 (100.0%) | 0 | 0 |
| その他 | | 16 | 0 | 15 (93.8%) | 1 (6.2%) | 0 |
| 総 合 計 | | 141 | 5 (3.6%) | 135 (95.7%) | 1 (0.7%) | 0 |

業務実績評価集計表(平成30年度)

| 区分 | | 評価対象 項目数 | A 計画を 上回って実施 | B 計画を 十分に実施 | C 計画を十分には 実施していない | D 計画を 大幅に下回る |
|---------------|--------|-------------|--------------------|-------------------|-------------------------|--------------------|
| 教育 研究 等 | 教育 | 45 | 3 | 42 | 0 | 0 |
| | 学生支援 | 19 | 0 | 19 | 0 | 0 |
| | 研究 | 11 | 1 | 10 | 0 | 0 |
| | 地域貢献 | 11 | 3 | 8 | 0 | 0 |
| | グローバル化 | 9 | 1 | 8 | 0 | 0 |
| | 合 計 | 95 | 8 (8.4%) | 87 (91.6%) | 0 | 0 |
| 法人経営 | | 24 | 1 (4.2%) | 23 (95.8%) | 0 | 0 |
| 自己点検 | | 6 | 0 | 6 (100.0%) | 0 | 0 |
| その他 | | 16 | 0 | 16 (100.0%) | 0 | 0 |
| 総 合 計 | | 141 | 9 (6.4%) | 132 (93.6%) | 0 | 0 |